

〔例題 1〕 ベイトソン (Bateson, G.) が唱え、家族療法に影響を与えた「ダブルバインド」の説明として妥当なのはどれか。

1. 両親世代の問題が子供の世代に伝播<sup>てんぱ</sup>される家族投影過程が、多世代にわたり生じることである。例えば、父親の持っている自分の母親に対する問題が、形を変えて、子供の母親に対する問題となっていることをいう。実際の治療では家系図を用いることもある。
2. 否定的な意味を肯定的な枠組みに変えることである。例えば、「子供の問題に無関心な父親」と不満を持つ母親に対し、「口出しせずに見守ることができている父親」と表現を変えることで情緒的色彩を構築し直し、問題解決の糸口にする。
3. 家族のサブシステム間の境界線である世代間境界が侵害されることである。例えば、いわゆる母子密着は夫婦サブシステムと子供サブシステムの境界が不明瞭になったことによって生じた事態と考えられる。
4. 二者関係で、一方が言語レベルであるメッセージを發しつつ、非言語レベルではそのメッセージと衝突するメッセージを發することである。例えば、手をつなごうとした子供に、母親が身をこわばらせ、子供が手を引っ込めると、「私のこと好きじゃないの？」と母親が尋ねるような状況である。
5. 症状や行動をあえてやってみるように指示することである。指示に従えば症状のコントロールができたことになり、従わなければ症状をあきらめることになるので、いずれにしても症状の克服に結び付くことになる。

〔正答 4〕

〔例題2〕 社会福祉の各分野における専門職に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 福祉活動専門員は、ボランティア活動の推進や地域ネットワーク作りなどに関する活動を行っており、福祉事務所に配置される。
2. 家庭支援専門相談員は、地域の子育て家庭からの相談に対応する専門職であり、保育所や児童館に配置される。
3. 母子・父子自立支援員は、配偶者のない者で現に児童を扶養しているものに対し、その自立に必要な情報提供などを行う専門職であり、原則として児童相談所に配置される。
4. 主任介護支援専門員は、事業所・職種間の連携調整や、支援困難事例を抱える介護支援専門員への適切な指導・助言などを行う専門職であり、地域包括支援センターに配置される。
5. 障害者総合支援法における相談支援専門員は、市町村の障害者福祉に関する業務への支援などを行う専門職であり、都道府県の身体障害者更生相談所などに配置される。

〔正答4〕

〔例題3〕 「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

〔正答5〕